

## 詩篇 第46編 10節

「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」

どうにもならないことが起こり続ける。どうにもならないから、どうすることもできない。どうにもならないから、誰にも相談できない。どうにもならないことが延々と続いてしまう。これまでどうしてきただろうか。とにかく、なんとかしようとして立ち向かう。でも、どうにもならない。それでも、と嘆き叫びながら向き合う。しかし、何も変わることはない。どうにもならないことが横たわったままだ。諦めと、時の過ぎるのにまかせている。どうにもならないことが、忘れるに取って代わる。まるで、なにもなかったかのように。

どうにもならないことの前で、ひとつさらにできることがある。どうにもならないことをやめることである。静まることである。沈黙することである。なにもしないことである。そして、わたしこそ神である、といわれるお方を認める。神が国々であがめられ、地の上であがめられることを知る。

それが、人にはどうすることも、人がどうにもならない事柄に向き合う唯一確かな道である。絶望の淵にあって、すべてをやめ、すべてをもって、わたしといわれる神を仰ぐだけである。

2024年7月11日